

2021 年度事業報告書

特定非営利活動法人 ASOVIVA

I 事業期間

2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

II 事業の成果（事業計画方針に基づく評価）

運営基盤を安定させるために、マンスリーサポーターキャンペーンを子どもたちが動画を撮影して投稿するなど、一緒に協力しながら行ったことで、10 名程度の増加につながった。また運営資金に充てられるような助成金申請を積極的に行い、1 件の受給となり、運営費に充てたことに加えて送迎車の購入をすることができた。就労継続支援 B 型事業は、広報に注力したこともあり利用者獲得につながり、また地域との連携により施設外就労も実施できた。運営が不安定なことから見送られていた自治会参加も 10 月に実現できたことにより、より地域の方々との関わりをもつことができ、安心安全な環境づくりにつながった。11 月には特例認定の申請があり、寄付者が寄付控除を受けられるようになったため、より多くの方に応援していただける環境が整った。

III 事業の実施状況

（1）運営体制の強化（全事業）

1) 自主事業以外の収入の増加を図る

①特例認定を取得し、寄付金控除が受けられる団体となる

⇒11 月 16 日付で特例認定を受けることができた。

②マンスリーサポーターの 150 名増加を目標にキャンペーンを実施する

⇒コロナ禍によりイベント等の実施ができなかったが、10 名程度の増加した。

③運営費や車輛に充てられる助成金を申請する

⇒NPO 法人メッターフレンズより 100 万円の助成採択。

④企業スポンサー獲得のため外部の事業者、団体等との関わりを増やす

⇒NPO マッチングプラットフォーム『TIE UP PROMOTION』に団体掲載。

⑤プレスリリースを増やしメディア掲載に繋げる

⇒PRTIMES の NPO 支援枠に承認され、無料でプレスリリース配信ができる環境になった。

数件配信し、J:com の番組で取り上げていただいた。

2) 労働環境を整える

①人件費の賃上げを実現する

⇒賃上げはせず、スタッフを 1 名増やして 3 名体制にした。

3) 安全面への対策強化

①AED の設置

⇒設置のための助成金を申請したが、残念ながら不採択となった。低価格で安全に導入できるよう検討中。

②セキュリティ面の対策を強化し、避難訓練を定期的を実施する

⇒正面玄関からの出入りを来客のみとし、動線を一本化した。

(2) デモクラティックスクール ASOVIVA! (デモクラティックスクール事業)

1) メンバーの確保

①問合せ時、見学体験時の対応を丁寧にし、再来校へ繋げる。

⇒年度初めは在籍 22 名→年度終わりは 26 名となった。

除籍は 4 名 (内訳: 1 名卒業、1 名: 遠方へ引っ越し、1 名: 他フリースクールへ、1 名: 進学)

新規入学は 8 名。一定の成果は上がった。

②広報活動により新規の見学体験者を途切れさせないようにする。

⇒SNS 運営強化により、SNS を見ての新規見学者が増えた。

2) 学びを深めていける仕組み作り

①専門性の高いスキルサポーターの登録者数を増やし、子ども達が閲覧・利用しやすい提示をする。

⇒子どもたちが見たい時に閲覧できるファイルを作成。

必要に応じて、個別にサポートを依頼する機会が数件あった。

②外部者もスキルサポーターの閲覧・利用ができるサイトを月会費制で運用する。

⇒他のコンテンツと併せて月会費制の自主事業の検討を進めている。

③子ども達が様々なジャンルの人と繋がれる機会を増やす。

⇒10回のギフトデーや、活動中にサポートいただくなど、外部の方との連携ができた。

3) 週5日制

①毎週金曜日も開校し、週5日体制にできる費用の確保ができ次第、実施する。

⇒今年度は実施にいたっていない。

4) 経済的な個人負担の軽減

①段階的に個人負担額を下げていけるよう、寄付等の収入額を上げる。

但し、人件費等、運営費の確保→週5日制の実施→個人負担の軽減という段階を経て実施する必要があり、今年度での実現の見通しは厳しいが、長期的な課題目標として今年度も組み入れる。

その他

- ・6月に1人目の卒業生を輩出し、スクールスタッフとして選任されることとなった。
- ・高校生メンバーが発起人となって実施した10代が主役のイベント「10代フェス」は、スクールメ

ンバーのみならず、多様な10代の参加者、子どもから大人まで多くの来場があり反響も大きかった。

- ・学習提携サポート校となっている学校法人八洲学園 八洲学園大学国際高等学校に5名が在籍し、沖縄へのスクーリングに参加して全員単位認定され進級する運びとなった。また年度途中で1名が編入学し、年度末には6名の在籍となっている。
- ・運営基盤を安定させるための特例認定への申請が通り、11月16日付で大阪府より特例認定を取得。
- ・約140名の方々に継続的な寄付会員になっていただいている。
- ・11月に子ども達が思い思いのお店を出す「ASOVIVAまつり」を実施。支援者との有意義な交流の機会となった。

(3) MUSUVIVA (就労継続支援B型事業)

子ども、大人、障がい(児)者などの言葉で分けることなく一人の「ひと」として尊重する。お互いの立場や価値観を越え、様々な人と関わるなかで刺激や影響を与え合える関係性を築く。ゆったりとした時間の流れや環境で作業をする中で本人の好きな事を活かせる場を創造する。また、活動を通して自信を持つことが出来るようにサポートする。

1) 利用者の確保

①情報の発信 SNSの更新頻度を週2回に増やし、周知することで必要な情報を必要な人に届ける。

②関係機関への営業 活動の内容がわかるムスビバ通信を月1回発行し、関係機関へ持っていく。

⇒7月に2名、8月には新たに1名が加わり3名の利用者(内訳:身体1名、精神2名)が通われた。

(9月に1名が自身の体調が崩れたことにより退所、1名は入退院を繰り返すなどしていた。)

2) 工賃の確保

①自主製品の販売 陶器や健康茶の製造・販売を道の駅、オンラインショップなどで行っていく。

(お皿などの食器をカフェで使ってもらい、気に入れば買っていただけるようにするなど、知り合いのカフェや店に置いてもらえるか聞いてみる。)

⇒作業内容は創作、陶芸、草木染めした毛糸の販売、カレンダーの制作販売など。

茶葉の製造・販売では、地域の方にご協力いただき葉っぱの採取を行った。

②施設外就労の実施 千早赤阪村道の駅でのトイレ掃除など施設外での作業を実施していく。

⇒地域交流の一環として千早赤阪村道の駅と業務委託し、千早赤阪村道の駅での軽作業(玉ねぎの皮むき、調味料の計量と袋詰め)を実施。

その他

- ・ASOVIVAでの給食作りでは、利用者が子ども達の希望を聞いて献立を考え、材料調達を行った。調理当日は子どもたちも何を作るのか興味を示し、お互いに関わり交流する機会となっていた。

- ・2022年3月末をもって福祉事業の管理者兼サービス管理責任者の退職に伴い、国が定める配置基準を満たすことが出来ないため、2022年4月より事業休止。
- ・休止に伴い利用者には事前説明を実施し、1名は別事業所にお繋ぎした。もう1名は、長期入院中。

(4) 大人のASOVIVA(デモクラティック生涯学習支援事業)

1) イベントの実施

- ①古民家の環境を利用して半日リトリートができる魔女カフェやアートワークカフェなどを企画し実施していく。
- ②テーマに沿って思いの聴き合いやディスカッションを通して自分への理解を深めていくトークイベントを企画し実施していく。

⇒コロナ渦の影響により、イベント等の実施を見送っていたが、2月よりお話を再開。月1回の少人数の対話の場で、子育てや不登校、親子関係などの悩みや経験談を聴き合う機会を作っている。

IV 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

| 事業名 (定款に記載した事業) | 具体的な事業内容 | (A) 当該事業の 実施日時 (B) 当該事業の 実施場所 (C) 従事者の人数 | (D) 受益対象者 (E) 人数 | 事業費の 金額 (概算) (単位： 千円) |
|--|--|--|---|-----------------------------------|
| (1) デモクラティック スクール事業 「デモクラティック スクール SOVIVA!」 | 学校の代替となる学びの場。子どもが主体的に参画し民主的に運営するコミュニティースクール。 | (A) 通年 (B) 南河内郡河南 町寛弘寺 756 (C) 3人 | (D) 町内及び近隣他 市の5歳～18歳 (E) 定員30名 | 7,060 |
| (2) 就労継続支援 B 型 事業 「MUSUVIVA」 | 働く意思があるのに一般就労が困難な人が、自分の特性やスキルを活かして自分らしい働き方を創造していける働く場。 | (A) 通年 (B) 南河内郡河南 町寛弘寺 756 (C) 4人 | (D) 町内及び近隣他 市の就労が困難な人 (E) 定員20名 | 1,466 |
| (3) デモクラティック 生涯学習事業 「大人のASOVIVA」 | 成人の自分の育て直しの機会や、遊びを通して学ぶ機会の提供。 | (A) 月1回程度 (B) 南河内郡河南 町寛弘寺 756 (C) 3人 | (D) (1)の受益者の保 護者、(2)不登校に 悩む保護者、地域住 民、支援者など | 340 |